

フィリピン研修を終えて

小杉将吾

私は、2月18日～26日の9日間、CFF ジャパンが企画した第37回フィリピンスタディーツアーに参加しました。はじめに、このスタディーツアーに参加した理由について記載します。大学1回生の夏休みに3週間イギリスでの語学研修に参加し、フランスにも足を伸ばしたのですが、驚くことばかりでした。実はとても浅はかな考えから、私はヨーロッパ人がみんな同じような性格で、同じような生活をしているものだと思っていました。ですが、よく考えると、日本人と中国人だって全く異なります。私は、フランスに行ったことで、国によってこんなに人間性が違うという当たり前の事実が気が付き、海外に興味を持つようになりました。また、自由な時間が膨大に増えた大学生活において、何かを自分で成し遂げたいと思うようになり、発展途上国で苦しむ人々について、自分ができることはないかと考え始めました。ただ、自分がよかれと思って行動することが必ずしも彼らのためになるわけではないという指摘を受け、実際に発展途上国に行き、自分の目で見てみるが必要だと思い、このスタディーツアーに参加することを決めました。

実際にフィリピンに行ってみて、感じた率直な感想を述べると、多くのフィリピン人は今の生活に特に不満を抱いていないということです。もっと言うと、彼らに幸せかどうか問うと、必ず幸せだと答えるのです。スタディーツアーに行く前までは、彼らは今の生活に幸せだと感じておらず、私達に助けを求めているものだと思っていました。もちろん、支援を必要としている方々もいました。しかし、フィリピンに行き、様々なフィリピン人と話すと、みな口裏を合わせるように今が幸せなのだというのです。ダグーパンという都市にあるごみ処理場で、お金になるものを見つけ、それを売って生計を立てている女性は、毎日炎天下の中9時間働き、月収は500ペソ（日本円で1000円程度）にも関わらず、「今結婚して、旦那さんがいて、収入があるから今の生活に不満はないし幸せだ」と言いました。自分が彼女の立場になったとき、同じことを言えるでしょうか。別のフィリピン人からはこのような話も聞きました。フィリピン人はどんな小さなことにも感謝するから幸せなのだと。例えば、家族がいて、一緒に生活できていることが幸せで、愛する人と生きていられることが幸せで、住むための小さな家があることが幸せなのだと。彼らは、他人と比較して自分自身が幸せなのかを判断するのではなく、あくまでも自分で考えて、どんな小さな嬉しいことであってもそれを幸せだと思うのです。

スアル農村という山奥でのホームステイでは、お風呂に入るために川まで水を汲みに行ったり、ご飯を手で食べたり、トイレトペーパーを使わず手で用を足したり、敷布団もないところで寝たりする経験もしました。日本での生活とはかけ離れた生活でしたが、本当に充実した9日間でした。既にできあがった自分達の生活を不満に思ったり、変えて欲しいと思ったりせず、今ある生活の中から幸せを見つけるということをフィリピン人の人達から教えてもらいました。フィリピンや発展途上国のことをこれからより深く学び、考えていきたいと思っています。